



TITLE:

支部欄 (續日食報告號)

AUTHOR(S):

CITATION:

支部欄 (續日食報告號). 天界 1936, 16(185): 456-458

ISSUE DATE:

1936-08-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167319>

RIGHT:

支 部 欄

大 阪 支 部 通 信 (6月)

☒8月5日 支部報第11號發行

5日附は8月例会案内として葉書にて、第2頁は観測キャンピング案内として用紙1枚刷にて9日發行。和歌山支部員にも配布され、大阪天文研究會が紹介されて居る。

☒8月8日 8月例会開催

心齋橋筋「をぐらや」集會室にて18時半開會。來たる11日より1週間開催の観測指導キャンピングの發表あり。多數參加者を約し、次に百濟支部長の「最近の天文學界」と題するベルチア・下保兩彗星、とかげ座新星、6月19日日食等の御話を拜聴、21時半よりウファ社の「宇宙の驚異」第7篇第1巻、支部幹事津田雅之氏が北海道日食旅行に撮影された實寫2巻の映寫をなす。車窓風景・観測隊の活躍振り・日食實寫は34名の出席者の眼を惹き付けた。本部より中村氏の出席あり、山本博士來會されてシベリア日食の御土産話と實寫映畫とは博士の御出席無き爲9月例会に延期となり、盛會裡に22時半閉會。

☒8月11日—17日 観測指導とペルセ座流星群観測キャンピング

阪和兩支部合同にて南海沿線樽井に1週間キャンプを實施。毎日の快晴に恵まれて観測條件満點。微光流星まで見え銀河の姿も鮮かなもの、ペルセ流星群は協同観測により大收穫が得られた。期間中の參加者は流星課長和歌山支部長小槇孝二郎氏、流星課幹事宇野良雄氏・大阪天文研究會坂井弘氏、大阪支部福井民雄・清水勝・西森紀久雄氏、流星課員脇田馬太郎氏等、徹夜の観測に疲れも見せず晝間は水泳・魚釣に興じ、O. A. A. の會旗は村民に親まれ携行の8匁反射望遠鏡は未見の人々に驚異の風景を展開した。淳朴な自然と人との交際も僅か7日間で終りを告げ、和氣霽々親睦は深められ、星の友は固く結ばれて17日無事にキャンプを終了す。

大 阪 支 部 9 月 例 會

1. 日 時 9月5日(土) 18時より
1. 會 場 心齋橋筋八幡筋南入西側 をぐらや(心交社)ビルディング3階
1. 天文談話會と學者に物を訊く會(詳細支部報)

京都支部・京星會だより (7月)

天文臺の日食觀測隊が歸つて來る。映畫や雜誌に日食寫眞が載る。未だ未だ日食の興奮はさめない。會員は會合毎に日食を語り合ふ。

○會誌「京星」7月號 皆既日食後最初に發行される會誌であり、特に原稿締切を延期し皆既地よりの日食記事、觀測報告等を加へ第10號日食報告號として中旬發行された。100部發行、内容は次の通りで40頁。

卷頭言 皆既日食を觀て一中頓別にて、前田治久 待ちに待った日食—花山天文臺、木邊成麿 皆既日食を見るの記—興部に、近田要 皆既日食地よりの電文 北海道に於ける皆既日食 6月19日皆既日食中の溫度變化表 京星會員による部分日食觀測 水車小屋の夜、佃泰三譯述 卒業試験、藤田一也 暗算で出せる月齡の計算法 星座神話—琴座 7月8月の天象 大文字山越の記 南陽丸より、笹部榮一 京星會報告 會告

○日食座談會 最初府立第一中學校に於て、同校天文同好會と共同にて開催の豫定であつた日食座談會は、都合で天界7月號に發表せられた通り、19日(日)19夜時より帝大樂友會館に於て、花山天文臺山本一清博士を初め、6名の諸先生及び當日大津に開かれた黃道光會議に、各地より出席された5名の諸氏及び阪神地方よりの數名の諸氏を迎へ、京都會員及び京都理科学研究會、一中天文同好會員の出席により50名の會合として盛大に開かれた。机上には今回の日食に關する新聞記事全部を蒐めたスクラップブック、皆既食、部分食、機械、觀測者の100枚近い寫眞及び切觸時刻、溫度變化等の報告が列べられ、座談會として發表されたが、花山天文臺日食觀測隊報告講演會の形となり、柴田淑次氏(第1觀測隊—枝幸村)、木邊成麿氏(第2觀測隊—一中頓別村)、高城武夫氏(第3觀測隊—遠輕町)、伊達英太郎氏(兵庫縣—部分日食寫眞14枚撮影)、公文武彦氏(第4觀測隊—滿洲國呼瑪)、山本一清博士(第5觀測隊—ロシア國オムスク)の順にて各々觀測隊の陣容、機械設備、觀測實況、皆既日食の狀況及び觀測地の風物人情、旅行中の面白い話等を語られ、一同時間の短い事を惜しみながら22時過ぎ閉會した。當日各地より出席された諸氏は、本田實氏(鳥取)、渡邊恒夫氏(大分)、福井實信氏(廣島)、廣瀬永治郎氏(岐阜)、寺町忠行氏(名古屋)、改發香嶋氏(神戸)、伊達英太郎氏(兵庫)、西森菊雄氏(大阪)であつた。

○彗星出現速報 下保彗星の發見及びその正しい位置豫報、ペルテア彗星が

肉眼で見へる旨及びその位置豫報が見取り星圖及び觀測上からの説明をつけて、21日半紙版の印刷物で京星速報23號として發行された。

07月幹事會 第2年度最終の定時幹事會が、17日(金)夜幹事岩崎房治氏宅で9名の出席者により開かれた。豫め配布されてゐた8頁の參考資料印刷物に従つて議事が進められ、9月よりの第3年度に對する方針を決定し、組織、幹事、會務執行規定、事業豫定の改正制定決定がみられ、第2年度締切及び第3年度に對する事務的打合せがなされた。

山 口 だ よ り

拜啓 長らく御無沙汰をして居ります。この度の日食觀測には山本先生を始め諸先生が各地で非常な努力を拂はれ、それが全部大成功でありました由、誠に嬉しく御祝ひ申します。色々の興味ある報告を待つて居る次第であります。私も地方委員の一人として色々考へて居りますが、何しろ微力にして思ふやうな仕事も出来ません。この度の部分食觀測には好天氣に恵まれて愉快に觀測を致しました。氣象關係を少し調査致しましたので御報告します。(報告文省く)

山口縣立柳井中學校 滿 本 達 雄

花山ブレテン、順調に發行さる

昨年來花山のブレテンは印刷所及び印刷費用の都合に依り、甚だしくその發行がおくれて居たが、日食もすみ、最近すこぶる餘裕を生じたので、目下東京及び京都兩地に於て急ぎ印刷中。來る9月4日附第320號の印刷完了(9月10頃)とともに發送される豫定。尙 321號以後は毎月1—2回づつ正規に發行される筈。

(因みに、ブレテン購讀は年額1.80圓、申込は協會事務所へ)

編輯後記

★日食が大成功だつた御蔭で、日食に關する原稿が机上に山積し、編輯子を悩殺する!! 正に天文界の黄金時代が來たやうだ。日食とは云はぬ。其他の寄稿が又續々送られる。蓋し編集部は近頃ない裕福だ。

★1年の天文季節「秋」が來た。そこで早速、久方ぶりで「流星」に關する觀測法の記事を幹事・宇野良雄氏より寄稿され、本號を飾ることにした。同氏に謝意を表す。誌上多彩!!

★日食記事はまだまだ追號添載の豫定。地方に於ける部分食觀測の報告も興味多い記録である。兎に角、日本全國の日食だつたのだから——

★220米山頂の花山には早くも初秋のおとづれ、いと物靜かに——(葵星)